

元気通信

GENKI-TSUSHIN

地域で支える

伝統の小正月行事

上松木内の「紙風船上げ」

地域で支える伝統

2月10日に行われる上松木内地区の小正月行事、「紙風船上げ」は五穀豊穡、無病息災などの願いを込め、巨大な紙風船を打ち上げます。浮かび上がる紙風船の灯火が夜空にきらめく真冬の風物詩です。

約2カ月前から、上松木内の8つの集落では、準備が始まります。図柄の選定、紙の裁断、下絵、色塗り等、地域で力を合わせ進めます。

36尺巨大紙風船

通常の倍の高さ、36尺(約12m)の巨大紙風船を作る、中泊・寺村集落ではこの日、会館と紙風船館で、大人から子どもまで手に筆を持ち、皆一心に下絵に色を塗っていました。

紙風船は、絵や文字を描いた和紙を4枚貼り合わせ、下部には通常、竹の輪っかを取り付け完成しますが、巨大紙風船には板を使った、特別の輪っかが使われます。「軽くするため板の中をくり、抜いたり工夫してるが、直径が12尺(約4m)あるので約15キロほど。これに紙が組み合わさると25キロから30キロくらいになる」とのこと。

紙風船館の交流室ではその



36尺用の輪っかは工夫を凝らし強く、軽く

当日は、巨大紙風船の他、各集落が作成した武者絵や美人画が描かれた紙風船が、夜空に100個あまり打ち上げられ、大勢の観客を今年も楽しませてくれます。

みんなの願いが夜空に

巨大紙風船用の和紙が広げられ、下書きに絵付けが行われていました。大きさは交流室の半分ほどにもなり、「この位の広さがないと作業ができない」との話も納得です。

今年の図柄は、年末に発見のうれしいニュースがあった「クニマス」と地元の大事な交通手段「内陸線」です。皆さんは絵の具の色合いや、塗り方など細かく確認し合い、作業に没頭。紙風船作りは午後も続けられました。



紙風船館では、中泊・寺村集落と宮田集落の作業も大詰め。皆さん一致団結し、手際良く

